

令和4年度 星翔高等学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、工業科、普通科、国際科を有する総合学園の強みを生かし、中学生の興味・関心、適性に応じた多様な学びの入り口を提供し、スローガン（標語）である「笑顔輝く学園！」を掲げ、基礎学力、規範意識を基底とした以下の学力・能力・技能等を個に応じた指導で身につけさせる。

| | 工業技術系 4 工学科 | 普通科 2 コース | | 国際科 1 コース |
|--------------------|--|--|---|--------------------------------------|
| | 機械、電子機械、 電気、コミュニケーションシステム | アドバンス | キャリア | スポーツ |
| 育成したい学力・能力・ 技能等 | ・「ものづくり」の基礎的な技術・技能・知識 ・工業人としての高い倫理観と責任感 | ・大学受験勉強、準備等を通じて育成される自己理解・自己管理能力 ・難関大学に合格するための自学自習力、学力 | ・進路ニーズに対応した学力 ・探究学習等を通じて育成される主体的に学ぶ力、対話力 | ・国際理解・スポーツ技術・技能 ・部活動等を通じて育成される人間力 |
| 基礎学力・規範意識（基本的生活習慣） | | | | |
| 進路 | （理工学系）大学 就職、専門学校 | 四年制大学等 | 大学、専門学校 就職 | （体育系）大学、専門学校 就職 |

2 中期的目標

I. 確かな学力の育成と授業改善

- (1) ICTを効果的に取り入れながら、授業の質の向上を図り、基礎的・基本的な学力が定着できるよう、授業改善に取り組む。
 - ア 生徒の実態を把握し、「わかる授業」「魅力ある授業」を推進する。
 - イ 教員の授業力向上のため、教員相互の授業見学や研究授業の活性化と、外部との連携による研修の充実を図る。
 - ウ 基礎学力等を把握することを目的とした診断テスト実施のための事前指導、その結果を踏まえた補習等のしくみを構築し、基礎学力の底上げを図る。
- (2) 工業科の「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。
 - ア 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
 - ・ 国家資格を中心とした資格取得指導に注力する。
 - ・ 令和2年度に開校した「星翔高校ドローンスクール」を定着、発展させる。

II. 自立・自己実現の支援

- (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
 - ア 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少に努める。
 - イ 教育相談体制を充実させるとともに、人権教育・支援教育を推進する組織の活性化を図る。
- (2) 生徒会活動、行事等を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
 - ア 生徒会活動、行事等の活性化を図り、生徒自らが課題意識をもって学校生活を送れるよう支援する。
- (3) キャリア教育・職業体験教育の充実に努める。
 - ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
 - イ 普通科キャリアコースのキャリア選択授業における専門学校・大学等との連携授業を継続的に発展させる。
- (4) 自己実現に向けた支援に取り組む。
 - ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
 - イ 普通科アドバンスコースの指導充実を図り、国公立大学も含めた難関大学への進学実績をつくる。

III. 信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 渉外（生徒募集）活動の改善を進め、入学者数の増加を図る。
 - ア 1 学年 300 名以上の生徒数確保、900 名以上の規模を維持し、財務状況の安定化を図る。
- (2) 生徒のよりよい学校生活を支えるため、施設設備等の改善を進める。
 - ア 部活動を活性化し、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実、安全対策の改善に取り組む。
 - イ 推薦クラブ、クラブ種目等の見直しを含めた国際科スポーツコースの充実、改善を進める。
 - ウ 歴史を重ねた校舎の風合い、空気感を生かし、施設・設備の改修を進める。
- (3) 学科、コースの在り方を見直す。
 - ア 新学科・コースの設置を視野に入れ、学科・コースの編成について、見直しを図る。

IV. 校務の効率化と職場環境の改善

- (1) 校務の効率化を推進する。
 - ア 校内業務の精選と組織分掌等のスリム化（校内組織の再編整備）をめざし、協議、検討を進める。
 - イ 情報の共有化、迅速化を図るため、校務のICT化を進める。
- (2) 職場環境の改善を進める。
 - ア 「働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェックの結果等も踏まえ、労働安全衛生委員会等で議論を行い、改善を図る。

3 令和4年度の取り組み内容及び自己評価

| | 重点目標 | 具体的な取り組み | 評価指標 | 自己評価 |
|-----------------------|---|---|--|--|
| I 確かな学力の育成と授業改善 | <p>(1) 確かな学力の育成と授業改善 ア 「わかる授業」「魅力ある授業」の推進 イ 教員相互の授業見学や研究授業の活性化、外部との連携による研修の充実 ウ 基礎学力の底上げ</p> <p>(2) ものづくり教育の推進 ア 資格取得への支援</p> | <p>(1) ア・ICTを効果的に取り入れながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を推進する。 ・グーグルクラスルームの活用等、オンライン学習の取り組みを推進する。 ・1年普通科キャリアコースにおける探究授業(クエストコーポレートアクセス)を継続して実施する。 イ・校長による授業を担当する教員に対する授業見学を継続実施する。 ・ウェブでの授業研究サービスを教員の研修、自己啓発に活用する。 ・教員相互の授業見学、授業改善の取り組みを進める。 ・保護者の授業参観を実施する。 ウ・SHRを活用した朝学習を実施する。</p> <p>(2) ア・第二種電気工事士等の国家資格を中心とした様々な資格取得指導を組織的に進め、生徒に達成感、成就感を醸成する。 ・星翔高校ドローンスクールの取り組みを定着、充実させる。</p> | <p>(1) ア・学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答 65%以上 (R3 62%)。 ・教職員による自己評価「オンラインによる学習支援」の肯定的回答 50%以上 (R3 26%)。 ・クエストカップ全国大会出場 (R1~R3 連続出場)。 イ・非常勤講師を含めた全教員に対して実施。 ・各教員1回以上の活用。 ・授業見学1人1回以上。(6月と9月に授業見学週間で実施) ・保護者 65組以上 (R2, 3 未実施、R1 63組)の参加。 ウ・第1学年における国・数・英の定着。学習結果を踏まえた低学力生徒支援対策の立案。</p> <p>(2) ア・第二種電気工事士試験(全員受験)合格率70%以上 (R3 40%)。ジュニアマイスター顕彰者数、昨年並み (R3 T2, G4, S6, B5)。 ・操縦技能証明、安全運航管理者証明、無線従事者資格の取得者数50名以上を維持。</p> | <p>(1) ア・学校教育自己診断 56%、昨年度を下回る。(△) ・自己評価 9.3%。(△) ・4年連続全国大会出場を果たす。(○) イ・ほぼ全教員に対して実施。(○) ・夏期の教員研修中心に全教職員が活用。(○) ・延べ見学人数 11名にとどまる。(△) ・授業参観参加者、大幅増の88組。(◎) ウ・1年の朝学習は実施できた。低学力生徒については、各教科で対応継続。(△)</p> <p>(2) ア・第二種電気工事士試験(全員受験)の合格率は85%。(◎)、ジュニアマイスター顕彰者数は、ゴールド1名、シルバー2名、ブロンズ1名と昨年より減少。(△) ・46名、概ね維持。(○)</p> |
| II 自立・自己実現の支援 | <p>(1) 規範意識の醸成 ア マナーの向上とルール厳守、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少への取り組み イ 教育相談体制の充実</p> <p>(2) 生徒会活動、行事等を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 生徒会活動の活性化 イ 行事等の改善、充実</p> <p>(3) キャリア教育・職業体験教育の充実 ア インターンシップの充実 イ キャリア選択授業の充実</p> <p>(4) 生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現</p> | <p>(1) ア・無遅刻週間等の取り組みにより、遅刻総数の削減を図る。 ・集会時や日々の学校生活における啓発に加え、立ち番指導等、生徒の意識を喚起する取り組み等を推進し、問題行動防止に努める。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 ・スマホの校内における節度ある使用(マナー遵守)を徹底させる。 イ・特別支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を進め、支援を必要とする生徒に対する教員による相談対応の充実を図る。</p> <p>(2) ア・清掃活動等、社会貢献につながる活動に取り組む イ・内容、実施時期も含めて、行事全般の見直しを検討する。</p> <p>(3) ア・3年ぶりに時期を11月から夏休み中に変更し、実施に向けて計画、調整する。 イ・2、3年キャリアコースにおける選択授業を継続的に取り組めるよう専門学校・大学との連携を深める。</p> <p>(4) ア・進路に関する保護者への啓発に係る学校行事等を実施し、生徒の自己実現の取り組みをより一層支援する。 イ・就職希望者の進路実現に向け、夏期休暇中の就職講座を継続実施するなど、きめ細かな指導を行い、就職一次合格率、内定率の向上を図る。 ・アドバンスコースをはじめ大学進学希望者の進路実現に向け、外部の諸機関、スタッフとの連携を深めるとともに、校内での情報共有をより一層図るため、大学受験対策室(仮称)を設置するなど、きめ細かな進路指導を行う。</p> | <p>(1) ア・遅刻総数 4,000以下に削減 (R3 4754)。 ・問題行動年間指導件数 25件以下 (R3 28件)。 ・転退学率 5.0%以下 (R3 6.4%)。 ・情報機器のマナーに関するアンケート「スマホを授業中に使用する」について、「ない・ほぼない」の合計を100%に近づける (R3 96%)。 イ・学校教育自己診断「保健室や教育相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」の肯定的回答 60%以上 (R3 55%)。</p> <p>(2) ア・校内外の清掃活動等、昨年実績を維持。 ・摂津市のボランティア活動に延べ20名以上参加 (R3 10名)。 イ・課題意識の共有、意見集約。</p> <p>(3) ア・参加者数 20名。 イ・生徒に満足度アンケートを実施し、肯定的回答 80%に近づける (R3 77%)。</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」について、肯定的回答 80%以上 (R3 77%)。 イ・就職一次合格率 80%以上を維持 (R3 83%)。内定率 100% (R3 96%)。 ・「関関同立」「龍甲産近」「摂神追桃」の合格者数、昨年以上。(R3 21) ・大学進学希望者決定率 100% (R3 96%)</p> | <p>(1) ア・遅刻総数 5,766 と昨年より増加。(△) ・指導件数 29件。(△) ・転退学率 6.8%。(△) ・94%。(△) イ・学校教育自己診断 56%と微増。(△)</p> <p>(2) ア・昨年実績維持。(○) ・43名と大幅増。(○) イ・未着手。(一)</p> <p>(3) ア・夏休み中に実施したが、受け入れ企業側に新型コロナウイルス感染防止対応の影響が残り、参加者は4名にとどまる。(△) イ・授業アンケート結果で 3.47 (4段階)、100%換算 87%。(○)</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断 78%と微増。(△) イ・就職一次合格率 74% (△)、内定率 100%。(○) ・7名。(△) ・昨年並みの 96%。(△)</p> |
| III 信頼される魅力ある学校づくり | <p>(1) 渉外(生徒募集)活動と入学者の確保 ア 渉外活動の検討・充実</p> <p>(2) 有意義な学校生活と組織、施設設備の改善 ア 部活動の充実 イ 施設設備の改善</p> <p>(3) 学科、コースの在り方の見直し ア 学科・コースの改編検討</p> | <p>(1) ア・塾への広報を継続して改善、強化する。 ・入試広報室を組織的に機能させ、オープンスクール、入試説明会等の内容改善、円滑な運営を図り、生徒、保護者の満足度を高め、受験者数、入学者数の増加につなげる。 ・入試広報室と教職員間の意思疎通を図るための連絡会を実施する。 ・ホームページのさらなる改善を進める。</p> <p>(2) ア・部活動を活性化し、生徒の加入率を向上させ、活気ある高校生活が送れるよう、環境整備や安全対策を強化する。 イ・WiFi設置工事を実施する。</p> <p>(3) ア・国際科スポーツコースの普通科への改編準備作業を進める。 ・ドローンコース等の設置を検討する。</p> | <p>(1) ア・塾長説明会出席 70塾以上 (R3 54塾)、塾訪問延べ 2000以上を維持 (R3 2700)。 ・オープンスクール来校者 2回合計で 500組以上 ((R3 495組)。受験者数 900名、入学者数 300名 (R3 763名、255名)。 ・年2回以上実施。 ・アクセス数 10%以上増加 (R3 9%)、校長室だより年間 60回以上更新 (R3 52回)。</p> <p>(2) ア・加入率の 50%以上 (R3 6月 49%、2月 48%)。 イ・工事の完了。</p> <p>(3) ア・年度内の認可。 ・合意形成後、カリキュラム内容の作成。</p> | <p>(1) ア・塾長説明会出席者 55名 (△)、塾訪問延べ 2500。(○) ・来校者数 2回合計 642組 (○)、受験者数は 821名と増加したが、目標に到達せず。(△)、入学者数は 295名と前年比 16%増。(○) ・連絡会は未実施だが、報告・連絡・相談頻度は高められた。(△) ・セッション数は 7.6%増。(△)、校長室だよりは昨年並みの 51回更新。(△)</p> <p>(2) ア・6月 59%、2月 60% (○) ・年度内に実施できず。R5年度当初実施予定。(△)</p> <p>(3) ア・認可取得。令和6年度スタート。(○) ・検討継続。(△)</p> |
| IV 校務の効率化と職場環境の改善 | <p>(1) 校務の効率化推進 ア 校内組織の再編整備 イ 校務のICT化推進 ウ</p> <p>(2) 職場環境の改善 ア 「働きやすい職場環境づくり」の推進 イ 働き方改革に向けた取組</p> | <p>(1) ア・分掌、委員会等の再編整備の検討を進める。 イ・校務支援システムの運用を定着させる。</p> <p>(2) ア・労働安全衛生委員会等で議論を深める。 イ・分掌業務・クラブ等の業務効率化を図り、時間外勤務時間削減を進める。</p> | <p>(1) ア・再編整備素案の作成。 イ・システムの完成。</p> <p>(2) ア・ストレスチェックの「総合的健康リスク」(専任教員)を基準値 100に近づける (R3 108) イ・時間外勤務月 80時間相当以上の教職員数の減少。</p> | <p>(1) ア・未着手。(一) イ・校務支援システム(BLEND)の導入、運用について不具合を改善しながら、実施。(○)</p> <p>(2) ・「総合的健康リスク」(専任教員)普通教育部 131、工業教育部 115。(△) イ・勤怠管理システム未導入のため、正確な把握ができていない。(△)</p> |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施分〕 | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|
| <p>【生徒】 ○昨年度に比べ、肯定的回答率が増加した項目 問3. いじめについて、真剣に対応してくれる。58.2% (+1.2%) 問4. 担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。56.2% (+1.1%) 問6. 学校は、進路についての情報を知らせてくれる。77.8% (+0.6%) 問7. 星翔祭等の行事は、楽しく行えるよう工夫されている。67.6% (+9.5%) 問9. 資格取得を先生に支援してもらえる。62.9% (+3.6%)</p> <p>○昨年度に比べ、肯定的回答率が減少した項目 問1. 学校に行くのが楽しい。67.4% (-1.3%) 問2. 授業は、わかりやすく楽しい。56.1% (-6.3%) 問5. 学校生活について、先生の指導は納得できる。58.5% (-4.7%) 問10. この学校に入学してよかった。58.7% (-2.1%)</p> <p>○生徒の結果分析 「問2. 授業は、わかりやすく楽しい」の肯定的回答率の減少が目立ったが、4カ年の平均で比較すると、-2.6%である。別途実施している授業アンケート結果では、教員の授業に対する満足度は4点満点の3点台半ばで推移している。 「問7. 星翔祭等の行事は、楽しく行えるよう工夫されている。」については、新型コロナウイルス感染症の規制緩和もあり、大幅に増加したと考えている。 その他の項目の増減は±5%以内で、設問項目を*10項目に絞り込んだ4年間、大きな変化はない。生徒は概ね学校生活全般に満足していると考えている。 *注)R3年度は体育大会中止に伴い、体育大会関連の設問項目(問8. 体育大会は、楽しく行えるよう工夫されている。)を除外していた。R4年度は、体育大会を実施したにも関わらず、アンケート内容の更新ができておらず、体育大会関連の設問項目(問8)を除外したままの9項目に対するアンケート実施となった。</p> <p>【保護者】 ○昨年度に比べ、肯定的回答率が増加した項目 問1. 子どもは、学校が楽しいと言っている。77.6% (+1.9%) 問7. 学校は、教育活動について、提供の努力をしている。71.4% (+4.7%) 問8. この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。41.2% (+12.5%) 問9. 保護者会活動は活発に行われている。39.7% (+7.5%) ○昨年度に比べ、肯定的回答率が減少した項目 問2. 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。54.4% (-6.7%) 問3. 学校の生徒指導の方針に共感できる。63.5% (-2.7%) 問4. 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。72.2% (-2.0%) 問5. 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。54.1% (-1.1%) 問6. 学校は、子どもに生命を大切にすることや、社会のルールを守る態度を育てようとしている。68.0% (-1.8%) 問10. 子どもをこの学校に入学させてよかった。83.4% (-0.5%)</p> <p>○保護者の結果分析 生徒に対する同趣旨の設問同様、「授業がわかりやすく楽しいと言っている」の肯定的回答率の減少が目立ったが、4カ年の平均で比較すると、-2.2%である。問8、9の肯定的回答率の大幅改善については、新型コロナウイルス感染症の規制緩和が大きく影響していると思われるが、コロナ前の水準であり、「わからない」の回答率が高く、さらなる改善が必要であると考えている。その他の項目の増減は±5%以内で、生徒同様、4年間、大きな変化はない。 「問10. 子どもをこの学校に入学させてよかった。」の肯定的回答率が83.4%と最も高く、学校の教育内容全般について、理解が得られていると考えている。</p> <p>【教職員】 ・学習指導・生徒指導・進路指導・特別教育活動・学校運営・その他という6つの評価領域で自己評価アンケートを実施している。全41項目の設問中、18項目について、60%以上の肯定的回答率があり、教育活動全般においては概ね一定の成果をあげていると捉えているが、昨今の教育課題の多様化、複雑化を反映し、学校運営における会議の有効性、研修、保護者との連携等に関する項目については、肯定的回答率が減少する傾向がある。</p> | <p>【確かな学力の育成と授業改善】 ○クエストエデュケーションについては、早くから取り組まれており、もっと評価されるべきである。個人的には◎でもよいと思っている。 ○ものづくり教育における「ドローン」の位置づけはどのようなものか。 →校長からドロースクール設立の経緯、資格取得状況、授業への位置づけ等を説明した。 ○機械工学科で何か資格はとれるのか。 →ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育は実習授業で取得できる。集中講習では、小型車両系建設機械特別教育、小型フォークリフト特別教育、研削といしの取替え等業務特別教育を実施している旨、前年度電子機械科長から説明した。 ○資格取得については、成果があがっており、教員の努力は評価できる。 ○ジュニアマイスターとは何か。 →校長から、全国工業高等学校長協会主催の顕彰制度で、取得した各種の国家資格や検定資格に応じて点数が与えられ、その合計点数に応じてプラチナ・ゴールド・シルバー・ブロンズの称号が授与される制度であることを説明した。併せて本校では、それに倣って星翔マイスター顕彰制度を設けており、生徒の資格取得を奨励している旨も追加説明した。 ○オンライン学習の具体的内容、求めているものは何か。 →校長から、R4の学校経営計画においては、主にグーグルクラスルームを使った取り組みであり、その内容については、現状、各教員にまかせている旨の説明をした。</p> <p>【自立・自己実現の支援】 ○遅刻指導の目的は、遅刻をさせないこと。カウントすることが指導ではない。遅刻に関する懲戒処分も考えてはどうか。 ○就職一次合格率については、個人的には意味がないと考えている。内定率100%の方が意味がある。 ○体育大会、卒業式と生徒はおとなしかった。落ち着いたと思うが、もう少し元気があってもよいのではないかと。</p> <p>【校務の効率化と職場環境の改善】 ○国際科の先生方は、生徒募集活動も兼務されており、負担が大きいように思う。</p> |